株式会社東京ソワール

社会貢献委員会

所　在　地	〒107-8604 東京都港区南青山 1-1-1 新青山ビル西館 10・11 階 ☎（03）3475-1251
U　R　L	http://www.soir.co.jp

社業の【フォーマルウエア】を活かした社会貢献

企業の活動理念　philosophy

「ファッションビジネスを通じて、日本女性の生活文化向上に寄与するとともに、消費者・株主・従業員の福祉と豊かな生活を実現する」という経営理念を掲げる東京ソワール。

６つの企業行動憲章のうち、「地球環境の保全と人間の尊重」「よき企業市民としての行動」という精神に基づき、社会貢献活動を推進し企業人としての役割を果たすことを目指している。同時に、部門を超えた社員同士が活動を通して交流を持つことで、業務へのモチベーションが上がることも期待している。

年間活動状況（2017）　activity

2月……NPO法人プラチナ美容塾にてフォーマルセミナー実施(高齢者対象)
港区立青南小学校青南フェスタに参加(コサージュ作り)

3月……ティーンズファッションプロジェクト　2016年度まとめイベント開催
(アクセサリー作りとファッションショー)
夢★らくざプロジェクト　おしごとなりきり道場 in 川口に参加(デザイナー体験)
2016年度活動報告会実施

5月……小平市なかまちテラスまつりに参加(デザイナー体験)
介護老人保健施設　えきさい横浜にてファッションショー実施(高齢者対象)

6月……夢★らくざ共催　弟子入り道場　東京ソワールに弟子入り開催(デザイナー体験)

7月……都立王子第二特別支援学校　放課後子供教室「王二クラブ」　土曜講座に参加(コサージュ作り)
杉並区立第七小学校　サマースクールに参加(コサージュ作り)
赤坂・青山子ども中高生共育事業　弟子入り講座実施(社内見学とデザイナー体験)

8月……文部科学省　こども霞が関見学デーに出展(職業体験プログラム)

9月……港区立赤坂中学校職場体験(社内見学とデザイナー体験)
BumB 東京スポーツ文化館　子どもの仕事塾に参加(デザイナー体験)
介護老人保健施設 コージーハウスはすぬまにてファッションショー実施(高齢者対象)
グッドタイムリビング新百合ヶ丘にてファッションショー実施(高齢者対象)

10月……みなと区民まつりにみなとネットの会員企業として出展、第２回港区社会福祉フォーラムに参加

11月……夢★らくざプロジェクト　おしごとなりきり道場 in アリオ西新井に参加(デザイナー体験)
港区立青山中学校職場体験(社内見学とデザイナー体験)
老人ホームアライブ久が原にてファッションショー実施(高齢者対象)

12月……東京都　第11回教育支援コーディネーター・フォーラムに出展

アパレルでは珍しい、社会貢献活動への取組

東京ソワールの社会貢献活動を大きく進めるきっかけとなったのは、2007年当時、新規事業へのプロジェクトチームを立ち上げた際に高齢者施設訪問の提案がなされたことだ。

営利を目的とするより、CSR活動として進めてはどうかというトップの判断から、現在のCSR担当（当時は社長室勤務）の斉藤由美氏が社会貢献活動としてスタートさせた。

斉藤氏によれば、当初は「24時間テレビチャリティー募金」しか実施していなかったので、まずはペットボトルのキャップなどの収集ボランティアから開始しようと考えていたという。しかし、2009年に港区に立地する企業の社会貢献担当者の連絡会である「みなとネット」に参加して活動を学ぶうちに、出前授業など様々なヒントを得ることができた。

人事総務部　CSR担当
斉藤 由美 氏

また、港区の「赤坂・青山子ども中高生共育（ともいく）事業」にも協力を開始する。その間、他社が行っているボランティア活動や、行政機関のボランティア推進施策に影響を受けたり、また、外部の講座や研修会に参加するなどして情報収集に努めた。社会貢献活動に取り組むのは、アパレル業界では珍しい存在であった。

その後、斉藤氏がCSR担当として中心となり、2014年に社会貢献委員会を立ち上げた。活動が広がるにつれ、それまでのように数名で業務を担当するには無理が生じたためだ。現在、委員会には、技術部、企画部、情報システム部など異なる部署から7～8名がリーダー及びメンバーとして参加している。

社会貢献委員会メンバーが直接声を掛けて活動仲間を増やす

委員会では、社会貢献委員の任期をおよそ2年と定め、1年目はメンバーとして、2年目はリーダーとして企画運営の段階から携わることになる。また、委員会活動は業務とみなされているので、活動の際の振替休暇、交通費などを申請することができる。活動については、発足時からボトムアップでの取組が定着している。

活動範囲は、教育CSR・地域貢献・シニア支援・被災地支援の各分野で、参加者はその都度社内インフォメーションや社会貢献委員からの直接の声掛けで募る。「会社規模から言っても、相手の顔が見える直接的な声掛けが最も有効なのです」と斉藤氏。

年間を通じて、延べで社員の２割が参加する。活動には退職者も参加しており、今後も積極的な声掛けをしていきたいという。

活動手順は、まずデザイナー、パタンナー、マーチャンダイザーなど、部署の異なる委員が集まり、年間計画を練る。次に、担当者を選んで活動の実施に向けて段取りを決め、活動内容について社員に通知し、参加者を募る。

社内ではイントラネットの社内インフォメーションで情報を周知し、年に一度、3月に社会貢献活動報告会を開き、1年の活動内容をまとめて報告している。

社外に向けては広報部と連携して、ニュースリリースの配信や、株主報への掲載により取組を広く周知している。

また、東京都教育委員会に登録する形で開催される、企業での職業体験のための出前授業見本市では、児童や先生方から生の感想を聞くことができる上に、様々な企業の情報にも触れることができ、効果的な社会貢献活動を検討する有効な機会となっている。

2014年には「放課後NPOアフタースクール」と連携して“ティーンズファッションプロジェクト”を立ち上げた。同NPOは、おしゃれに興味のある子供たちにファッション関連のセミナーやワークショップの機会を提供している。

2015年には、一般社団法人「夢★らくざプロジェクト」との連携も始まった。

子供たちの「夢★デザイン」を応援するプロジェクトで、様々な仕事体験の機会を提供している。

新人研修にも社会貢献活動を導入

社会貢献活動が、全くの未経験だと参加へのハードルが高いので、「1回は体験してみて」をキーワードに、一人でも多くの人に参加してもらえるよう社内ネットワークを活かしている。入社時など比較的若いときに一度体験していれば、その後も気軽に再参加がしやすいだろうという考えから、新人研修にも社会貢献活動を積極的に取り入れている。昨年度は社会貢献委員会が社長表彰もされ、会社のバックアップも万全だ。

現在は物づくりの部署内で活動が広まっている。彼らは物づくりの経験を活かし企画立案しているが、今後は事務職の社員たちにも広げていこうと考えている。イベントで好評だったコサージュ作りは物づくり初心者でも参加しやすいのでうまく声掛けしていきたいという。

フォーマルウエアの文化も伝えたい

初期のプロジェクトから参加しているCADグループ赤城静氏は「社会貢献活動に婦人フォーマルメーカーの特性を活かしたい」と語っている。子供に夢を与えたり、高齢者に笑顔になって貰ったりすることを目指した結果、地域に根ざした活動に成長してきた。

例えば、児童施設や学校などへの出前授業では、子供たちがファッションや物づくりに興味を持ち、職業としてのファッション業界を意識する機会を作り、キャリア教育の一端を担っている。それと同時に、日本の冠婚葬祭の習慣、フォーマルウエアの文化などを学ぶプログラムを提供していて、子供たちの反応も良い。教員や教育コーディネーターなどへ認知も広がり、出前授業・企業研修は小学校から高校まで依頼が増え、予想を超える反響を呼んでいる。

一方、高齢者施設へはファッションショーを提案・実施した。ファッションショーのモデルとして、きれいなドレスを着て人前に出ることは、気持ちを明るくする効果がある。外出や地域交流につながるきっかけにもなる。

商品統括本部 技術部
CADグループ
赤城 静 氏

こうした取組は、港区で社会貢献活動に取り組む他の企業にも影響を与え、社会貢献活動の気運醸成につながると期待できる。

活動の歴史

2006　社内チャリティーセールの売上の寄附を開始（24時間テレビ）
有志による高齢者施設訪問、ファッションショー実施を開始

2007　障害者雇用に取り組んでいる「日総ぴゅあ株式会社」の出張販売の受入れ開始

2008　港区に立地する企業の社会貢献担当者のネットワーク「みなとネット」に参加
港区総合支所「赤坂・青山子ども中高生共育事業」に参加し、初期メンバーとなる
エコキャップ・古切手などの収集ボランティアを開始

2009　みなと障がい者福祉事業団「カフェ・ドゥ」の出張販売の受入れ開始
放課後ＮＰＯアフタースクールと協働し、親子向けフォーマルイベントを実施

2010　企業義援に加え、直営店売上収益とチャリティー販売収益の一部を義援金として寄附（東日本大震災）

2011　南相馬、南三陸の仮設住宅等を訪問、コサージュのワークショップ実施

2012　放課後教室や特別支援学校で端切れを使ったコサージュのワークショップを実施

2013　社会貢献委員会発足
出前授業・体験授業の受け入れ開始

2014　港区赤坂地区総合支所「赤坂・青山ファッションニスタ事業」で協力セミナー開催
文部科学省「土曜学習応援団」に参加
「こども霞が関見学デー」出展～2017
夢★らくざプロジェクト「こども向け職業体験イベント」に参加
東京都教育委員会「夏休みスペシャル体験講座」出展～2016
文部科学省2015年度「青少年の体験活動推進企業表彰」審査員奨励賞受賞

2015　企業義援に加え、チャリティー販売収益の一部を義援金として寄附（熊本地震）
港区地域福祉フォーラム「シニアによるファッションショー」開催

2016　東京都「共助社会づくりを進めるための社会貢献大賞」特別賞受賞

2017

使って便利な社内制度　system

- 社会貢献委員会の設置
  （社内の各部署のメンバーで構成。ボランティア活動の企画・運営・社外への発信を行う。）
- 活動時の経費（交通費・宿泊費は会社負担）
- 休日活動時の振替休日取得制度

Activity content ❶

教育 CSR「僕の私のフォーマルウエア」

青山の地ならではの職業体験で子供の夢を拓く

社会貢献活動のうち、「教育CSR」「地域貢献」に関する活動。

地元青山地区を中心とした子供たちが東京ソワール本社などで、職業体験の講座や物づくりのワークショップを受ける。時には保護者も共に参加する。行政やNPO団体と協働している。

行政主催イベントへの「出前授業」出展

文部科学省の土曜学習応援団に登録し、「こども霞が関見学デー」には2015～2017年と続けて出展している。また、東京都教育委員会主催の出前授業の見本市「夏休みスペシャル体験講座」にも2015年、2016年と出展した。どちらも、出前授業としてフォーマルウエアに関する講義とデザイナー体験のワークショップを企画した。

まず、全ての教育CSRで行う「僕の私のフォーマルウエア」という講義を聞く。「フォーマルウエアって何?」「冠婚葬祭ってどんなときのこと?」「洋服ってどうやって作るの?」という内容で、なかには小学校低学年には理解し難い話もあるが、子供たちは写真やイラストを食い入るように見つめ、聞いている。世界のトレンドを参考にマーチャンダイザーとデザイナーが企画する。デザイナーはデザイン画を描き、他者にプレゼンするためのイメージマップも作成する。次にパタンナーがデザイン画を元に型紙をおこす。現在はパソコンでの作業も増えた。その後、工場で縫製され、やっと販売に至る。自分たちが店頭で手にする洋服ができるまで、多くの大人が携わっている背景を知り、驚く子供も多い。

次に、子供たちはデザイナー体験として、イメージマップを作成する。イメージマップとは、自分のコンセプト、デザインを他者

に伝える為に「視覚化」したもの。「自分のフォーマルウエア」をテーマに、デザイン画、雑誌の切り抜き、端切れ等を貼り付けていく。最後は皆の前で発表し、東京ソワールのデザイナーから講評を受ける。

体験した子供たちは「家や学校では学べないことが学べて楽しかった」「家でも作品の続きを作りたいくらい楽しかった」と感想を寄せている。また、これらの講義とデザイナー体験を見学した学校関係者は「マナーやTPOを学びつつ、簡単な体験と自己の発表を行えるこのプログラムは、本校でも取り入れたいと思う」「物づくりの過程を知ったり体験できたり、とても魅力的な講座だった」と感想を寄せたという。

これら文部科学省、東京都教育委員会のイベントでの「出前授業」の出展を経て、問合せ・依頼が増え、近隣の赤坂中学校、青山中学校をはじめ、東京都立葛飾聾学校、杉並第七小学校、中根小学校、港区と友好交流協定を結んでいる岐阜県郡上市の八幡中学校と続いている。

「赤坂・青山子ども中高生共育事業」への協力

この事業の特徴は、企業・学校・地域が連携して「地域全体で地域の子供を見守る」ということ。東京ソワールはこのプログラムの一つである「共育弟子入り講座」に参加し、デザイナー体験やコサージュ作りを提供している。

コサージュ作りのワークショップでは、ドレスのサンプルを製作した際に余る端切れを、社員が花びらの形に切り抜いて準備しておく。子供たちは沢山の生地の中から、色とりどりの花びらを選び、重ねてはボンドで留めていき、最後はレースやビーズなどで飾る。保護者も一緒になって夢中になる人気のワークショップだ。

「ティーンズファッションプロジェクト」における取組

「放課後NPOアフタースクール」と東京ソワールとの連携プログラムの一つ、親子向けの「母の日イベント」では、まず親子揃ってフォーマルウエアのセミナーを受ける。その後、母親がドレスを試着する間に、子供はコサージュとメッセージカードを作成し、青山のレストランでフォーマルなティーパーティーを体験後、母親にプレゼントした。イベントに参加した母親は、「冠婚葬祭について改めて知ることができて勉強になった」「フォーマルウエアをゆっくり見たり着たりする機会が無いので、大変参考になった」と感想を寄せている。

一年を通した「ティーンズファッションプロジェクト」の最後には文化服装学院のステージを借りて、大規模な子供ファッションショーを行っている。東京ソワールは端切れを使ったアクセサリー作りのコーナーを企画し、子供たちは自分で作ったアクセサリーを身に付けランウェイを歩いた。

「道場やぶり　おしごとチャレンジ～ファッション大作戦」における取組

一般社団法人「夢★らくざプロジェクト」の、仕事体験ワークショップの「おしごとなりきり道場」と、会社訪問の「おしごと弟子入り道場」に参加している。

弟子入り道場の進化版、「道場やぶり　おしごとチャレンジ～ファッション大作戦」では、2日間にわたるプログラムのなかで、アパレルブランドの企画→洋服づくり（シャツのリメイク）→ファッションショーという仕事の流れを体験できる仕組みだ。子供たちは実際にデザイン画を描き、ミシンを踏んで洋服を完成させ、ファッションショーに臨む。

参加した子供たちは「服を作る仕事はとても大変だけれど、体験できてよかった」「将来ファッションデザイナーになりたいので、今回、実際の仕事の流れがわかる体験ができて楽しかったし、いい思い出になった」「とても楽しかったので、次回もこの企画があったらやりたい」と感想を寄せている。

Activity content ❷

高齢者ファッションショー

洋服の力で、車椅子の高齢者も立ち上がる

社会貢献活動のうち、「シニア支援」「地域貢献」に属する活動。

高齢者施設や公共施設などで、同社のフォーマルドレスを高齢者に着てもらい、ファッションショーを行う。

いろいろなサイズのドレスとアクセサリーをあらかじめ揃えて出向き、施設スタッフと共に高齢者モデルの準備をする。社員はメイクとアクセサリーのコーディネートを手伝う。施設内の会場を借りて1時間弱のショーを開催する。日頃、車いすや杖で過ごしている高齢者も、このときばかりは立ちあがり、あるいは杖を置いて、堂々と人前を歩いてみせる。何より皆、生き生きとした様子で、モデルのようにポーズをとる高齢者もいる。年を重ねても女性はきれいなものを着ると喜びに溢れるものだと、逆に若い社員たちは感動する。同時に、洋服の力というものを確信し、ひいては社業に、また、自分の業務にも誇りを持つようになるという。婦人フォーマルメーカーの特性がまさに活かされる活動である。事業の専門性を活かした社会貢献活動という点では、プロボノ（専門家が、職業上のスキルを活かして社会貢献をするボランティア活動）と呼ばれてよい活動だ。

今後も引き続き、港区地域福祉フォーラムや港区内の特別養護老人ホームなどと連携するとともに、多少遠方の地域でもオファーがあれば、業務との折り合いがつく限り、社員が現地に出向いていく。

ファッションショーを観覧する側の客は、施設に同居する高齢者やスタッフが大半だが、最近は高齢者モデルの家族も招いている。「母の表情がいつもより明るい」「おしゃれが好きだった若い頃の母を思い出して涙が出る」と、喜ばれているという。東京ソワールの社会貢献活動について知ってもらい、企業イメージの向上にもつながっている。

Activity content ❸

被災地支援

ファッションの魅力を被災地にも届けたい

東日本大震災の際には、企業として寄附活動などに取り組むほか、南三陸町では、夏休みの子供対象のデザイナー体験や、端切れによるコサージュ作りなどのワークショップを行ってきた。コサージュ作りは老若男女に人気で、お年寄りは針仕事をしながらのおしゃべりに花が咲いていた。今後は、そのつながりを大切にして現地でのファッションショーなども実現したいと考えており、その際には現地NPOと連携を深めながら検討していきたいという。「現地の皆さんが一緒に楽しめる機会を提案したい」と斉藤氏は語る。

これら全ての活動は東京ソワールのホームページから依頼できる。

委員の言葉

社内の友人に活動への参加を誘われて始めた。高齢者施設で、華やかなドレスを着て明るくなった高齢者を見ると、充実した気持ちになり、もっと活動を広めたいと痛切に感じた。

商品統括本部技術部
技術グループ
早瀬 亘浩 氏

衣服ができるまでの流れを子供たちに説明したが、ワークショップで使う端切れの美しさに子供たちが喜ぶ姿を見て、逆に感動した。裁縫ができないなど課題もあるので、子供たちの技術力に沿ったプログラムが用意できたらと考えている。

百貨店本部企画部
パターンメーカー
櫻井 文佳 氏

若手を中心に活動参加の誘いがくるので、誘われるままに参加したところ楽しいひと時を過ごした。社会貢献活動には関心があったので、今後も継続したい。同時に、本業での“よい、物づくり”を広げていかれるよう、幅広く声掛けして参加人数を増やしていきたいと思う。

百貨店本部企画部
マーチャンダイザー
伊東 聡 氏

物づくりに対する子供たちの新しい視点に驚かされることが多い。それは自分自身の本業にとっても勉強になる。今後は子供たちの希望するプログラムを考え、新たなファッションショーを企画できたらと思う。

チェーンストア本部
企画部
デザイナー
小峯 佳津子 氏

南三陸訪問が初めての活動参加だった。当社のCSRには様々なプログラムがあり、企画を考えたり、社外の方ともつながりを持ちながら一緒に活動ができ、刺激があって楽しい。

まだ参加した事のない方が少しでも興味をもってくれると嬉しい。

百貨店本部企画部
パターンメーカー
原 由佳 氏

株式会社東京ソワール